

水の週間実行委員会会長賞（優秀賞）

水のありがたさを知って

栃木県

佐野日本大学中等教育学校 二年

廣瀬 乃々佳

日本のほとんどのインフラは、戦後の高度成長期の一九六〇年代に整備されました。

インフラというのは、道路や上下水道、通信網など、社会生活を送る上でとても重要な存在です。そのインフラは、高度成長期から今日まで五十〜六十年使用されていて老朽化が進んでいる設備がたくさんあるそうです。その中でも水道管については特に深刻だそうです。水道管の耐用年数は約四十年で、現在ではそれを超えて利用されています。そのせいで、年間に約二千か所、つまり毎日日本のどこかで水道管が破裂しているそうです。しかし、様々な理由により破損した水道管を修理したり、更新することが難しくなっているそうです。原因の一つは、労働力不足です。少子高齢化の影響で約八万人いた水道事業従事者が現在は五万人を切ってしまっています。それにより、計画的に管路をつくる知識を持っている人がいなくなってしまうのです。また、国の予算もインフラの修理に回らず、不足しています。その結果使えなくなったインフラ設備をそのまま放置することも多いようです。また、データ不足や管路図の紛失も大きな影響を及ぼして修理や点検を行うのに対応が出来ないことがあるそうです。

水道管をすべて更新するには百三十年以上もかかる計算になるそうです。だとすると、耐用年数が四十年といわれているのに百三十年もかかるということは、修理が追いつかないということになります。

水道管について調べてみて、私は本当に驚きました。私が生まれた時から水道は当たり前前にあり、蛇口をひねれば水が出てきます。飲料水としても何の不安もなく使ってきました。断水というのも経験したことはありませんでした。もし、水道が無くなってしまうたら、使えなくなってしまうたら、と考えたら急に不安になりました。

そして、数週間前の台風で、千葉県の人たちが大きな被害を受け、未

だに電気が復旧していない場所があり、不便な生活を送っている地域の人たちがいるというニュースを見ながら、私の住む町でもいつ同じような災害が起きてもおかしくないのだと思いました。そこで試しに水道管について調べてみて水がどれほど大切に水道がどれほど大事なものであるかを実感してみようと思いました。

週末に一日だけ、水道を使わずに生活してみました。まず、朝起きて顔を洗って、歯を磨いて・・・と思い水道に手をかけて止まりました。毎日無意識に水を使っていることを朝一番に実感しました。そして、トイレを済ませて出てくると、母親に「トイレを流す水も水道水だよ。」と言われ私はハツとしました。飲み物はペットボトルで済ませることができましたが、食事は水を使わずに調理するのは難しく、結局、非常食として備蓄してあったアルファ米と缶詰を食べました。ただ、食後に食器を洗えずにどうしたらいいのだろうと困りました。なるべく洗い物を出さないように生活することを考えなくてはいけないのだと思いました。

洗濯物も一日洗わずにいても、ずっと洗わずにいるわけにはいかないし、お風呂も一日くらいなら入らずに我慢できますが、何日も体や髪の毛を洗わずにいるのは不快でたまりません。

たった一日だけの断水体験でしたが、やってみて感じたことは、今まで本当に何も考えずに当たり前のように蛇口から出てくる水を貴重だとも思わずに使い続けてきたという自分の無関心さに気づかされました。

この体験を生かし、これからは水道のありがたさを心に持ちながら、水を大切に使うように心がけて生活していこうと思いました。